

物語をはじめよう!!

“一人一人”が主人公

明日の西高の物語は“みんな”で創る



令和 7 (2025) 年 9 月 8 日

校長だより Vol. 7

『同じ星を見て歩いていきましょう!』⑤ 「strong ties(強い絆)」と「weak ties(穏やかな絆)」

一学期始業式や『校長だより Vol. 1』で、「希望」と「幸福」に満ち溢れた一年にしていきたいと思います。とお話しました。

なぜ、「希望」と「幸福」という言葉を使ったのか、その理由は別の機会に・・・としておりましたので御紹介します。

平成 28 年度ですので今から 10 年前になるでしょうか。静岡市立高校校定時制課程の教頭をしていた時に、定時制の生徒たちを元気づけてくれる講師を探していたところ、当時の校長（志村剛和先生）の御紹介で、なんと東京大学社会科学研究所で『希望学』について研究をされていた玄田有史教授（のちに同研究所所長、現副学長）と知り合うこととなりました。その時からの御縁で毎年一回は少し気楽な感じでお話を聞く機会に恵まれています。本当にありがたいことです。

【最近では、8月6日(水) 19:30~放映された NHK クローズアップ現代『戦後 80 年スペシャル テレビが伝えた“あすへの希望”』に御出演されました。事前に志村先生から御連絡をいただいたお陰で、リアルタイムに拝聴することができました。】

困難に直面しても簡単に逃げたりしないで、もがいてウロウロしていれば、その姿を必ず見ていて手を差し伸べてくれる誰かに出会える。でも、諦めてしまえば、そうしたチャンスを失ってしまう。人生上手くいくことばかりではない。紆余曲折してもいいから、自分が辿り着きたいゴールに向かって諦めずに頑張ろう。そんな、これまで、『校長だより』に認めてきた内容や、以前お話しした『失敗には種類がある。』『決意と決断は違う。』という話にも繋がると考えています。私に限らず、みなさんもきっと、昔から大事にしたい(してきた)ことはそう多くはなく、変わらない(普遍的な)ものだと思います。玄田先生にお会いして以降は、これまで感覚的にしてきたことへの明確な裏付けをいただけた思いです。玄田先生はもちろん、志村先生をはじめ様々な先輩諸氏から御教示いただけてきたことのすべてが繋がっていると確信でき、現在の私の言動のエビデンスとしているところでもあります。

「希望」と「幸福」は、『これだ』というような明確な答えがあるわけではありませんが、求め続けることに意味があると感じています。私の考え方に大きな影響を与えた玄田先生のお話の中でも、印象深いお話の一端でもある「strong ties(強い絆)」と「weak ties(穏やかな絆)」について御紹介します。

そもそも、「strong ties(強い絆)」と「weak ties(穏やかな絆)」という分類を提案したのは、マーク・グラノヴェッター氏というアメリカの有名な社会学者です。玄田先生の著書でも紹介されています。

「strong ties(強い絆)」は強い結束によってつながった信頼関係のことで、幼馴染の親友や、職場の仲間や同僚、家族などが挙げられます。特徴は密接な接触や交流が日常的に繰り返されることにあります。

一方、「weak ties(穏やかな絆)」は「strong ties(強い絆)」の様な近さはなく、むしろどちらかというと「遠い」関係にあることこそが特徴です。毎日会うというよりは、たまに会う程度の関係だったりします。住んでいる地域も違えば、就いている職業も違う。これまで経験してきたことも異なっているので、会って話をすると、お互いの話を「?」と感じ、「なんのこたか、よくわからない」ということもあります。このような自分の日常とは違う世界に生きている友人からもたらされる情報は、時に思いがけない新鮮さをもって自分に迫ってくることがあります。突然「?」から「!」になる瞬間が起こることがあります。

「そうか、こういうことをやってみればいいのか!」「そういう言葉は今まで自分では使ってこなかった!」という大きな気づきを与えてくれたりします。いつもはあまり付き合ひのない知人との関係は一見弱い結びつきであるように思えますが、日頃は得られない情報を運んでくれることで、強い力を発揮するということを調べた研究です。「異なる生活圏・仕事圏で緩やかにつながっている人の持つ情報や視点が有益な情報・視点をもたらす」というもの、なのですが、みなさんの経験上、『そうそう、そうだよ。』と共感する部分が多いのではないのでしょうか。「総合的な探究の時間(ともえタイム)」は、様々な外部機関と連携をする場面がありま



すが、まさしく格好の「weak ties(穏やかな絆)」を築く場面となっているのです。

さて、話は、静岡市立高校定時制時代に戻ります。平成28年度「心の教育推進事業」講演会として、演題は「市高生の仕事道 ～働くことは美しい～」12月19日(月) 18:40~20:10(90分)を計画しました。

東京大学の教授が、わざわざ定時制の生徒たちのために来てくれる。しかも、16時頃までの講義を終えて、その足で静岡へ新幹線で来てくれる。19時近頃の定時制の授業(2時間分の90分間)のために、わざわざタクシーで来てくれる。

もう嬉しいやら緊張するやらで・・・、当時の先生方とは、とにかく共有に共有を重ねて、三か月程前から準備に掛かりました。中高生でも理解しやすい文体でまとめた『14歳からの仕事道』という玄田先生の著書を、許可を得てコピーして生徒に配り、毎週HRなどで事前学習に取り組みました。すると、『14歳からの仕事道』の内容について、各クラスで様々(素朴)な疑問点が上がり、給食の時に食堂のあちらこちらで生徒が雑談している場面に遭遇することが多くなりました。私は生徒たちが抱いた素朴な疑問や質問を拾い上げまとめてみました。そして、玄田先生の参考になればと講演会前日にメールで送付したのですが・・・。

一般的にこうした講演では、講師の方はあらかじめオーダーに合わせた内容のプレゼンを作成しておいて、それをベースにして講演を展開するものです。しかし、なんと講演会当日の内容は、そうした生徒の質問(疑問)に対するキャッチボールトークを主流とした展開に変更してくださいました。一つ一つの質問に対して、堅苦しくせずにフランクにかつ丁寧に掘り下げていってくれる姿に、ただただ驚きと感動を覚えました。“この人スゴイっ!!” 玄田先生に“ハマった”瞬間でした。

当時の生徒からの質問

- 安定を求めるなど言うけど、変化ばかりで将来は大丈夫なのではないか?
- 「やりたい事がないことは不幸な事ではない」とは、どういうことなのでしょう?
自分はあったほうがいいと思うのですが。
- P79~P80「もう君たちは学生ではないのだから、カベにぶつかっても、頑張って乗り越えろ」とあるのですが、P80に「無理に乗り越えようとするな」とも書いてあります。
一体、どっちですか?
- ちゃんといいい加減ってどういう意味ですか?
- P104「仕事の醍醐味」 トラブル以外の醍醐味はないのでしょうか?
- P149「いい加減に生きる」のなかにある「遊び」、「いい加減」についてですが、
玄田先生の思う「遊び」や「いい加減」とはどのようなものですか?
- 「気楽に頑張れなんて言わないことだ」とありますが、
頑張るを必要とする人も中にはいるのではないのでしょうか?
- 頑張る以外に応援していることを伝える言葉はありますか?
- 楽しむだけでなく、苦勞もした方がいいのでしょうか?
- 色々な所で矛盾が生じていますが、この本を書かれている最中、迷いでもあったのですか?
- 自分で自分のボスになるために、具体的な心構えはありますか?
- 玄田先生ご自身は、偉い人にアタックしたことはありますか?
また、その時どのようにアタックしましたか?
- 「知らない誰かとの繋がりから見えてくる事」というのがイマイチ分かりません。
具体的にはどういうことなのでしょう?
- 自分は覚えが悪く、暗記が苦手です。 どうすれば覚えることができますか?
- バイトに行くまでが辛いです。 バイト先についてしまえばどうということはないのですが。
こう言う時はどうすればいいのでしょうか?
- 一章 P3「一生懸命」を「一所懸命」と書いたのは何故ですか?
- この本に書いてある事は理解できますが、実際に行動に移すとなると難しいことだと思います。
やはり、本だから言える事なのではないのでしょうか?
- 悩め苦しめは言いすぎではないですか?
いつまでもウジウジ悩んでる人は疎まれてるイメージがあります。



なぜ、「希望」と「幸福」という言葉を使ったのか、その理由については、ある程度御理解いただけたのではないかと思います。まだまだ玄田先生にまつわるエピソードはありますので、機会があれば御紹介いたします。
“同じ星を見て・・・” 西高に関わるすべての方々にとって、
「希望」と「幸福」に満ち溢れる一年にしていけるように、また、生徒一人一人が主人公となって、西高の物語を創っていけるよう、私たち自身も自分の人生の主人公となり、生徒と共に西高の物語を創っていきましょう。